急ぎ過ぎだよ 人類は。
ゆるやかなネットワークを目指す

IT より 遅いてェ

雑報 縄文

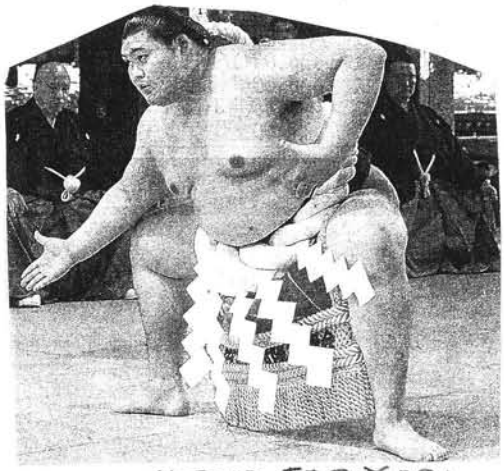
いろんな考えがあるから 面白い
いろんな人がいるから 楽しい

No. 706
2025年6月7日

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉市緑区誉田町(ほんだ) 2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 戦後80年 2 ページ
- 米の需給状況 4
- お便りから 10
- 地裁傍聴記⑤ 19
- 市民運動の排除に懸念 21
- AIは民主主義の養成? 22
- け・い・じ・ば・ん 26
- 七夕の節供 3 ページ
- 「関妃暗殺」他 6
- 山仕事(5月、大平) 18
- 口座開設に高い壁 20



(5月31日、朝日新聞)

陽は沈み 陽はまた昇る

6月3日、東京

(多くの人々に愛され
永く輝くように)

メール配信をご希望の方は、
<suzukikosei.san@gmail.com> へ。
三宅伊都子さんが
応対してくださいます。

題字:故佐村隆英和尚(元千葉県長柄町本光寺住職)
カット:故泉ゆきをさん(にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は気象業務150周年。

山仕事（5月、大平）

5月20日(火)。東京駅を出ると空が変だ。天候は晴のはずだが、煙霧というのだろうか、全体が薄い煙におおわれているようで、遠望が利かない。西へ行くにつれて薄らいだが、消えることはなかった。

敷地駅で迎えてくれたのは、久米さんと若林さん。竹中さんは屋久島へ遠征とのこと。屋久島といえば雨が名物、山で降られないといいけれど。

今回は、正士さん宅周辺の草刈り。また、草と格闘の季節がやってきた。まずはソバ畑。ほどよい草の伸びで、1時間半ほどで終る。車で30分ほどの「あらたまの湯」で汗を流す。相撲が気になって、早々に上がる。

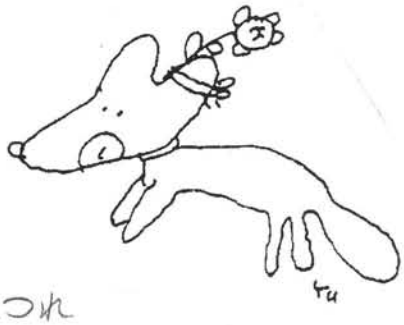
原江さん、久米さんが調えてくれた夕食。啓史さん青山さんと一緒にいただく。

(夕) カツオ土佐づくり、コハダの酢〆、久米さん栽培キヌサヤの卵とじ、焼ナス、ブロッコリーのサラダ、ワラビのお浸し、豆もやし、枝豆にそうめん。

回を重ねるごとに、啓史さんが打解けてきた。嬉しいこと。これには、久米さんが間に入って啓史さんと話をしてくれること。そして、啓史さんには遠縁に当たる青山さんが、常に啓史さんの隣りに居てくれることが助けとなっている。1年前はどうなるかと心配したが、今ではほゞ正士さん在宅の頃と同様になっている。ほんとうによかった。勿論、原田さんはじめ皆さんの気遣いもある。

今回も、内田美智子さんから泉屋のクッキーと瀬戸内レモンのレモネードを頂いた。中に入っていたメモには、「皆さんこんにちは。どの家も今年はツツジとバラが花盛りでした。式根島の娘の庭では、初めて植えて15年ぶりのライラックのつぼみがつき、私の家の鉢植え（2年目）のオリーブの木もつぼみがつきました。嬉しいです。お元気で！（いつも、ありがとうございます）

ぼくは、久しぶりに母屋で寝る。



5月21日(水)。晴～くもり～一時雨

昨夜泊まった啓史さん、今朝はめぐちゃんも長男とつれて見え、全員で記念撮影。正士さんの妹知世子さんのつれ合いも来て、雨樋などの整理。啓士さんは庭の整理など。

ぼくたちは、東垂れの草刈りを終え、坂上賢一さんの柿園へ。

(昼) 冷やし中華、ポテトサラダ、イチゴ（袴田克臣さん）。

午後も続きを。途中、パラッときたが、じきに止む。「あらたまの湯」。

(夕) 肉ジャガ、エビと明太子の春巻、ナスとキノコの炒め煮、くさや（山崎さん）、油揚・卵・野菜の含め煮、餃子、キヌサヤ炒め、ちりめんジャコ、白菜漬、枝豆。

5月22日(木).くもり。

雨の予報もあり、草刈りも一段落したので道具のメンテナンス。これまでは正士さんがやってくれたので楽だったが、これからは自分たちでということ。

母屋では、「元気里山」の皆さんに山本真由美さんが加わり、お茶の発送作業。

山崎さんと二人、東垂れで折れたサクラが垂れ下がっているのを切り離そうとして、左腕にかすり傷。

(昼) 恒例のカレーをいただき、久米さん、若林さんに見送られ、帰宅。